

## 第28回 宇部・小野田圏域緩和ケア事例検討会報告

緩和ケアセンター事務局

令和5年2月13日(月)に、第28回 宇部・小野田圏域緩和ケア事例検討会が山口大学医学部附属病院オーデトリウムにて開催されました。切れ目のない緩和ケアを実現するために、事例検討を通じて顔の見える緩和ケア連携体制の構築及び連携強化を図ることを目的とし、院内の医師、看護師、公認心理師、栄養士、MSWなどの多職種が参加され、合計49名の参加者となりました。

まず、当院の内田堅一郎医師より以下の事例提示と山縣裕史医師より意思決定支援に活用できるフレームワークの説明があった後、全体討議を行いました。

### テーマ：最善とは何か？-本人の意向を引き出す意思決定支援-

山口大学医学部附属病院 歯科口腔外科医師 内田 堅一郎 先生  
緩和ケアセンター医師 山縣 裕史 先生

施設入所中の口腔底がんの70歳代の男性が、治療の選択肢として①手術②放射線治療③化学療法④BSCの4つを提案され、“手術しないと治せないのであれば手術したい”との希望で手術を選択されました。しかし、それが本人にとって本当に最善なのか、多職種カンファレンスで検討した上で、本人とも話し合い、最終的に手術せずに緩和的放射線治療を行い、住み慣れた施設に戻れたという事例を振り返りました。

全体討議では、本人にとっての最善を考えると、どういうことか、そのためにはどういった方法で話し合っていくのが良いかということについて討論しました。参加者の方から以下の通り、たくさんのご意見が寄せられ有意義な検討会となりました。

- ・「意思決定支援について悩むことが多いため、良い学びとなった。」
- ・「本人の意思決定をする上で、本人の価値をひきだすことが大切だと理解できた。」
- ・「説明に対して患者さんの理解が悪いと捉えるのではなく、患者さん本人に正しく伝えきれていないのではないかと思われたことが、すばらしいと思いました。」
- ・「短い時間の中で患者の意向、同意を得るのは難しいことであり、看護師が介入することが重要になると思う。」
- ・ ベストケース・ワーストケース分析のフレームワークについてとても興味を持てた。その人らしい価値観は大切にしたいと思った。

この度は、様々な職種の方々に検討会にご参加して頂き、誠にありがとうございました。本検討会は、今後も継続して行う予定ですので皆様のご参加を心よりお待ちしております。

今後ともご理解、ご協力よろしくお願い申し上げます。

## 《検討会風景》

